

# ④ 指導力向上・教育環境の充実

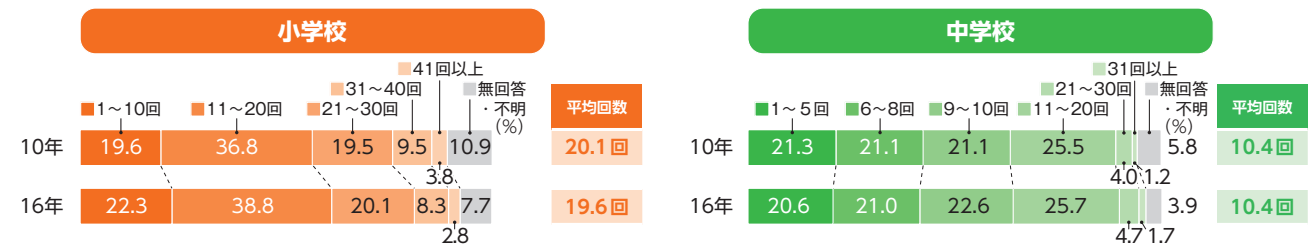
## 4-1 校内研修

「アクティブ・ラーニング」を校内研修として行っているのは小学校では4割弱、中学校では5割。

校内研修の回数(予定を含む)については、小・中学校とも10年から変化はみられなかった。校内研修領域をみると、10年に比べ、小・中学校とも増加しているのは「特別支援教育」「道徳」「中学校(小学校)との連携」である。小・中学校の「次期学習指導要領」(前回「新学習指導要領」)や小学校の「外国語活動」は減少幅が大きかった。次期学習指導要領の詳細はまだ明らかになっていない部分があるため、10年に比べ、校内研修として設定している割合が低くなったのではないかと推測する。今回新たに追加した「アクティブ・ラーニング」は小学校より中学校での実施率が高く、中学校での関心の高さがうかがえる。

Q 今年度の校内研修の回数を教えてください(予定も含みます)。

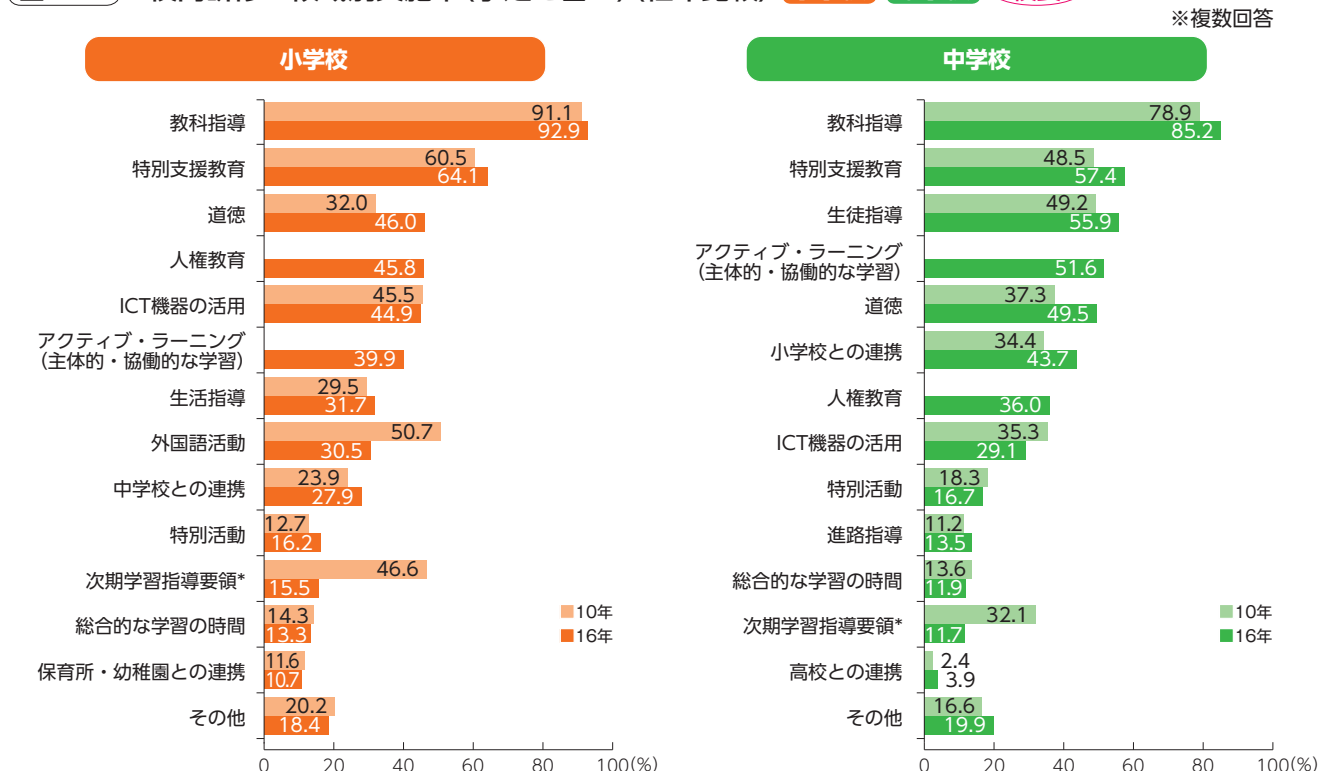
図4-1 校内研修の回数(予定を含む)(経年比較) **小学校** **中学校** **校長**



注)回数は数字を直接記入してもらったもの。平均回数は無回答・不明を除いて算出している。

Q 今年度、どのような領域について校内研修を行いますか(予定も含みます)。

図4-2 校内研修の領域別実施率(予定を含む)(経年比較) **小学校** **中学校** **校長**



注1) \*は10年では、「新学習指導要領」とたずねている。

注2) 学校段階別に16年の数値の高い順に並べている。

## 4-2 指導力向上

### 「若手のバックアップ体制づくり」に力を入れている小・中学校は7割前後。

教員の指導力向上のため、「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」に「力を入れている」（「力を入れている」＋「どちらかという力を入れている」と回答した小・中学校は、10年に比べ、30ポイント以上と大幅に増加した（小学校40.6%→71.3%、中学校34.6%→68.1%）。ほとんどの項目では10年に比べ、軒並み増加しているのが特徴である。教員の指導力を高めるための様々な工夫をされていることがうかがえる。

また、「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」については、30歳未満の若手教員の割合が高い小学校ほど、「力を入れている」と回答した割合が高いことが分かった。中学校も同様な傾向がみられた（図省略）。

4

指導力向上・教育環境の充実

Q

貴校では、教員の指導力を向上させるために、次のことにどれくらい力を入れていますか。

図4-3

指導力向上のため、力を入れていること（経年比較）

小学校 中学校 校長

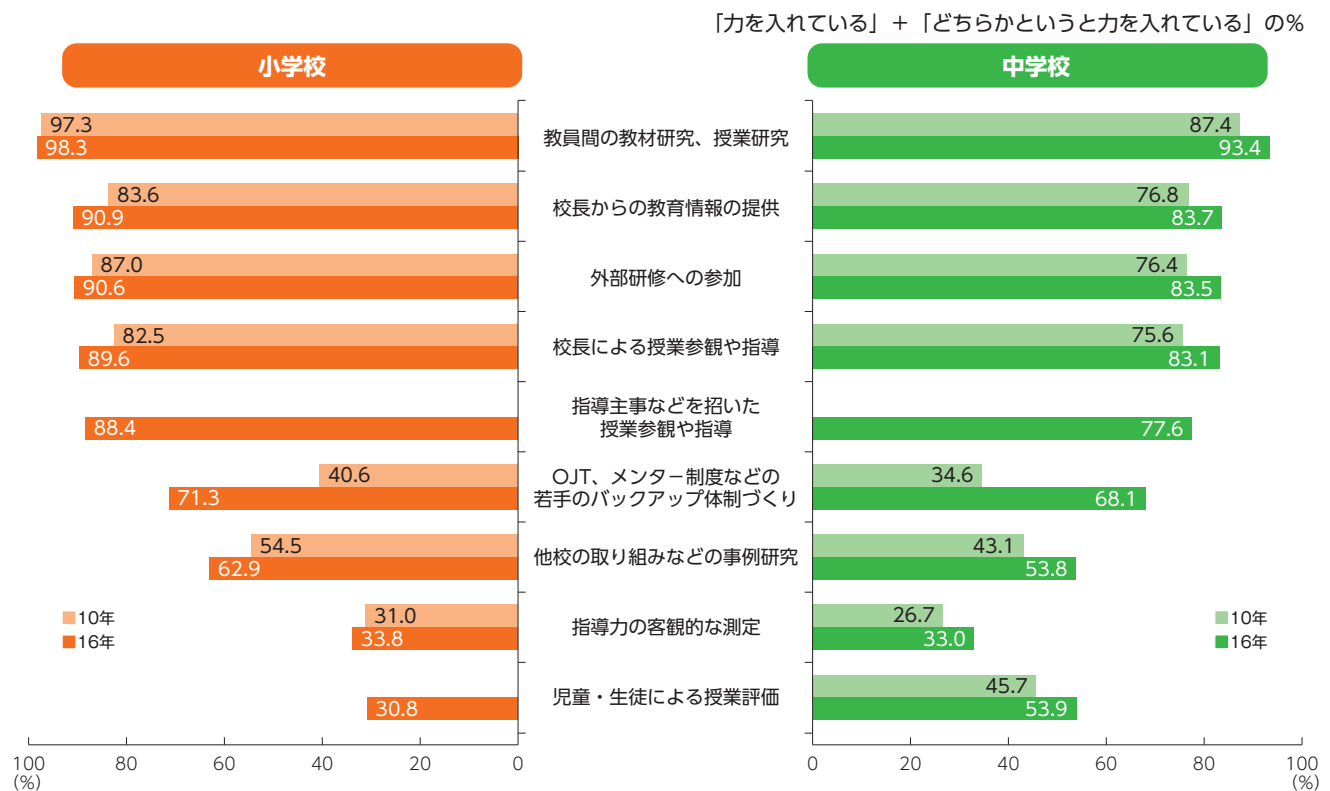
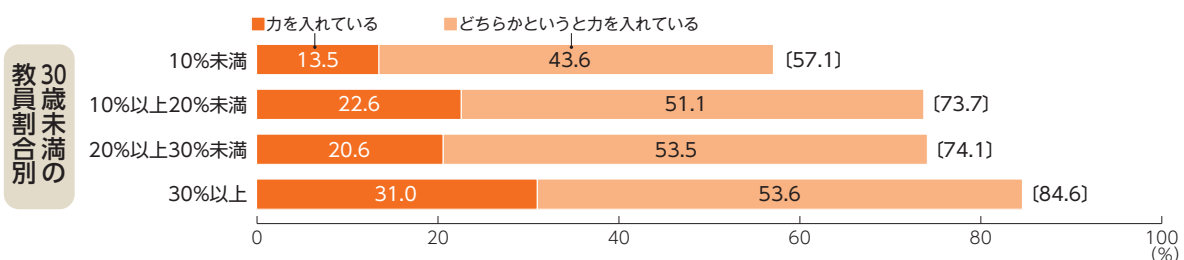


図4-4

指導力向上のため、力を入れていること（30歳未満の教員割合別）

小学校 校長

「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」



注1) 学校ごとに本務教員に占める30歳未満の教員の割合を算出し、「10%未満」(133名)、「10%以上 20%未満」(190名)、「20%以上 30%未満」(155名)、「30%以上」(84名)の4つに区分した。

注2) ( )内は「力を入れている」＋「どちらかという力を入れている」の%。

## 4-3 外部人材の活用

今後の外部人材のニーズとして高いのは、小・中学校とも「特別支援教育に関する補助・専門スタッフ」、次いで「授業中の補助スタッフ」。

各学校で現在活用している外部人材についてたずねたところ、「外国語指導助手(ALTなど)」は小・中学校とも95.4%とほとんどの学校で活用されている。次いで「スクールカウンセラー」が高く、小学校で68.8%、中学校では94.2%にのぼる。中学校では「部活動の指導者」がそれに続いている。

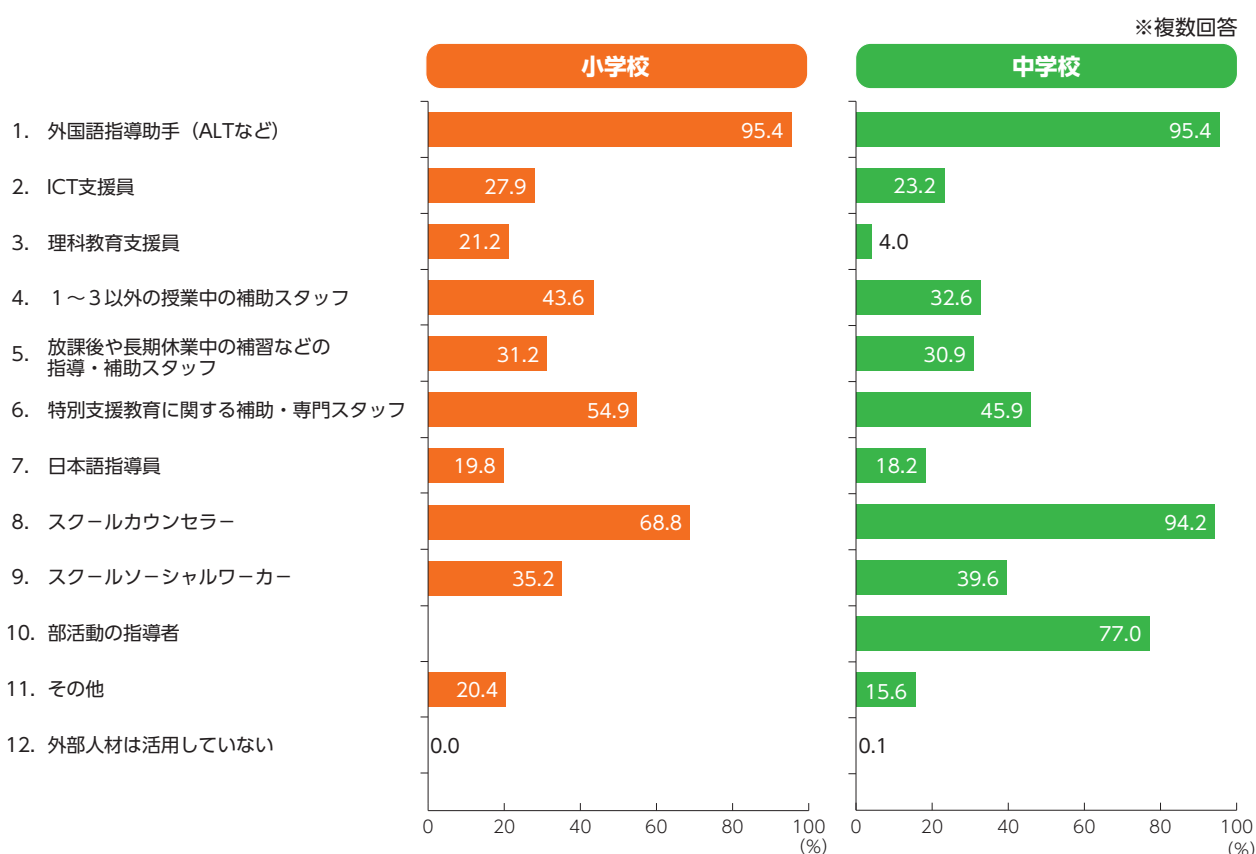
次に、外部人材の今後の増員ニーズについては、小学校の94.2%、中学校の86.6%が「増員したい」と考えており、中でもニーズが高いのは「特別支援教育に関する補助・専門スタッフ」、次いで「授業中の補助スタッフ」であった(図4-6)。

総合的な効果と課題についてたずねた結果(図4-7)では、「学習内容が充実した」「様々な困難を抱える児童・生徒に手厚い支援を行えるようになった」といった児童・生徒の指導に関する効果についての評価は8割以上と高いが、「教員が授業準備・教材研究などに充てる時間が増えた」と感じている割合は3~4割と、相対的に低くなっている。

Q

貴校では、次のような役割の外部人材を活用していますか。

図4-5 外部人材の活用 小学校 中学校 校長

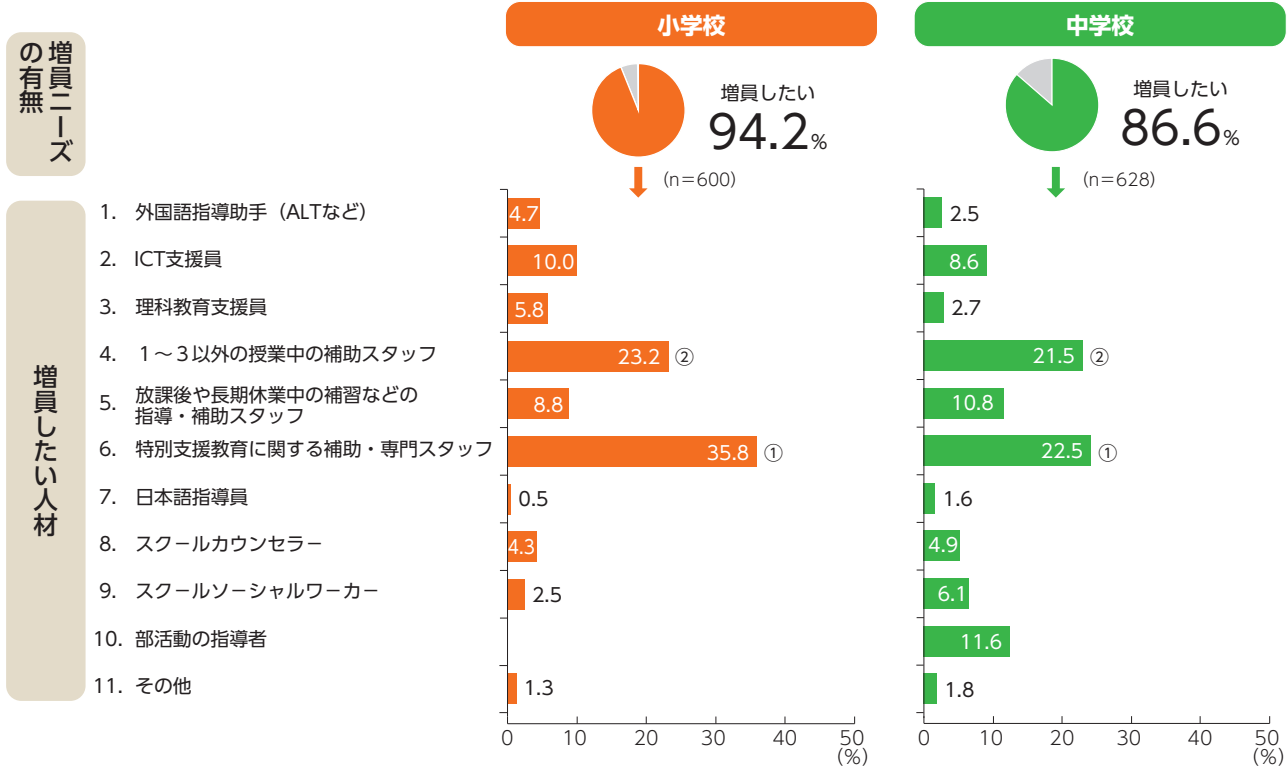


注1)「部活動の指導者」は小学校ではたずねていない。

注2)図では「無回答・不明」は省略している。図4-6も同じ。

**Q** 貴校で今後、増員したい人材はいますか。外部人材に関する項目のなかからもっともニーズの高い番号を1つご記入ください。現在の活用の有無は問いません。

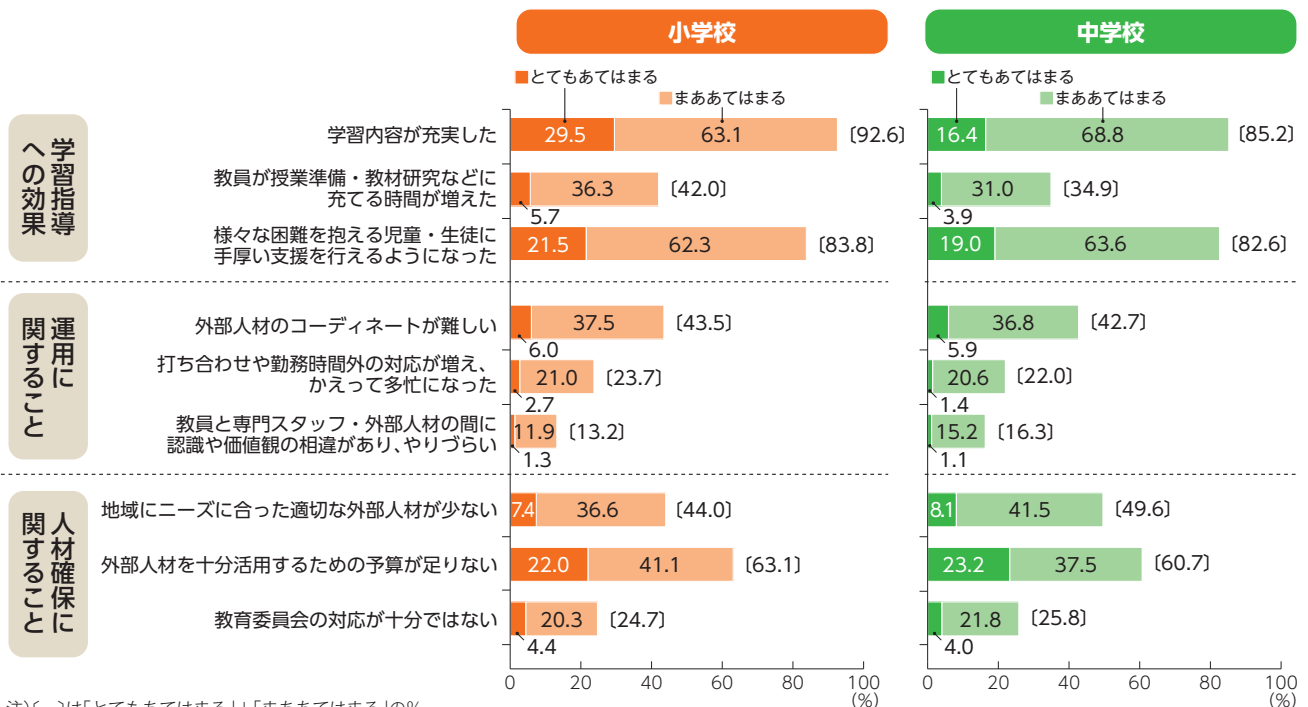
図4-6 外部人材の活用 **小学校** **中学校** **校長**



注1)「増員したい人材」の%は、「増員したい」との回答者に占める割合。対象者数は( )内の値。  
 注2)「増員したい人材」の質問では、図4-5の活用状況としてたずねた項目以外に「ニーズがあるが、前問の項目に該当するものがない場合は、具体的にその内容をご記入ください」として、フリーアンサーで回答してもらった。回答割合は小学校2.0%、中学校3.8%であったが、図では省略している。  
 注3)学校段階別に上位2位までを①、②と表示している。

**Q** 貴校での外部人材の活用について、総合的にみて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図4-7 外部人材活用の効果と課題 **小学校** **中学校** **校長**



注) ( )は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

4 指導力向上・教育環境の充実